

## 『人道精神』を核として

～思いやりの心を育む人道教育の推進～

八百津町教育委員会



### 1. はじめに

八百津町は、元外交官杉原千畝氏の生誕地である。

1940年、千畝にある決断を迫られる出来事が起きた。  
ナチス・ドイツの迫害から逃れてきたユダヤ人たちが、日本の通過ビザを求め、領事館前に押しかけた。  
日本政府は「正規の手続きができない者に、ビザを出してはいけない。」という命令を出した。  
命令に従って外交官としての輝かしい道を守るべきか、ビザを発給し、ユダヤ人の命を救うべきか。  
千畝は悩みに悩み、一つの答えを出した。自分の良心に従い、2139通に及ぶビザを発給したのである。

ビザを発給することで自分自身の命だけでなく、家族の命にも危険を及ぼすことも考えられる中、千畝氏のとった勇気ある決断と行動は後世に語り継がれるようになりました。  
そのような千畝氏の人道行為を取り上げ、八百津町では、『人道のまち やおつ』を合言葉に、千畝氏の温かい人間愛の精神のもと、世界平和の大切さ、命の尊さ、思いやりの心を育むことに力を入れています。

### 2. 『人道精神』を育む人道教育の実践

千畝氏の功績から、八百津町では『人権教育』を『人道教育』として取り組んでいます。

#### (1) 人道教育発表会の実施

町内、全小・中学校の児童生徒の代表者が集い、各学校のこれまでの人道に関わる取組とその成果を発表する「人道教育発表会」を実施しています。

各学校の思いやりあふれる具体的な取組を発表したり、他校の取組を知ったりすることを通して、これからも『人道精神』を大切にしていこうとする思いを再認識することができる会ともなります。町内すべての学校で他校の『人道教育』を共有するとともに、町内外の方々に「思いやりの心の大切さ」を伝えるいい機会となっています。



今年度は昨年度に引き続き、コロナ禍の影響もあり、発表会として開催できませんでしたが、各学校では、日常的に人道教育の推進を図る学校生活が営まれています。

#### (2) 杉原千畝人道創作劇「イエフダーと七つの灯」への支援

町内の八百津小学校では、平成18年度より人道学習のまとめとして、千畝氏の苦悩と勇気ある決断、当時のユダヤの方々の悲壮な思いと行動を題材とした杉原千畝氏オリジナル人道創作劇「メノラの灯」を上演してきました。上演11年目を迎えた平成28年度、「ふるさと教育岐阜フェスタ2016」の出演依頼をきっかけに、岐阜清流プラザ総支配

人、小島紀夫プロデューサーのもと、シナリオが一新された人道創作劇「イエフダーと七つの灯」が誕生しました。そして、6年目を迎えています。

「千畝さんは、自分の安全を犠牲にしてまで6000人もの命を救いました。人としての生き方を、私も誇りに思います。」  
「千畝さんみたいに、たくさんの人の命を救えなくても、一人一人が少しでも誰かのために行動することができることを伝えたいと思い演じました。」  
「私たちが学習している人道精神がとても大切なものであることと、仲間を思いやる心を伝えたいです。」

これは、創作劇を演じた子どもたちの言葉の一部です。

「千畝氏の生き方を学び、自分が人のためにできることを考え実践する心」、「人道精神を自分たちの手で伝える思い」など、創作劇の取組を通して、人道について考えるいい機会になっています。

教育委員会としても、劇の練習での町施設の利用やスタッフとしての派遣、諸経費等について支援するとともに、単なる劇の発表では終わらないように指導、助言しています。



【「イエフダーと七つの灯」上演の様子】

### (3) 『人道の部屋』の活用推進

数年前より、町内すべての学校に「人道」、「思いやり」をテーマとした『人道の部屋』の設置を進めてきました。この部屋には、千畝氏の功績や歩みを紹介する掲示物や書籍だけでなく、思いやりの心を育めるような絵本の紹介やその感想等の掲示など、心温まるコーナーとなっています。各学校の特色を生かした“部屋づくり”が整備されてきています。

### (4) 町内小・中学校における『人道教育』の指導や助言

コロナ禍の中、今年度は実施できませんでしたが、例年、町内にある杉原千畝記念館での学習をすべての学校で取り入れたり、宿泊研修の計画の中にリトアニア大使館等の訪問や敦賀市にある『人道の港敦賀ムゼウム』の見学等を位置付けたりしています。

また、町の社会科副読本や道徳教材による千畝氏の学習を推進するとともに、町内外の学校や千畝氏にかかわりの深い各種団体との交流を奨励しています。

今年度は、11月に駐日リトアニア大使館臨時大使アルギマンタス・ミセビチュウス氏が来町された際、八百津東部中学校を訪問され、授業を参観されたり、リトアニアセミナーと称して生徒と交流されたりしました。

## 3. さらに『人道精神』を育む

各学校、児童生徒にも『人道精神』が浸透し、学校の実態に応じた『人道教育』が展開されるようになってきました。そのような取組を通して、「気持ちの良いあいさつ」や「温かい言葉」が校内に広まっています。そして、他者を意識した行動が確実に増えてきていることを感じます。

「イエフダーと七つの灯」の劇中歌「君が明日と呼ぶものを」の歌詞の中に、『はじまりの種の一粒が いつか森になる』というフレーズがあります。千畝氏が蒔いた『勇気ある行動と決断』・『人道精神』という一粒の種が、八百津町の子どもたちの手によって受け継がれ、広まる。そんな八百津町の『人道教育』を今後も推進していきたいと考えています。